

令和6年度第2回 伊那市総合教育会議会議録

◎招集年月日 令和6年9月19日（木）
◎開催日時 令和6年9月25日（水） 午後3時30分～午後4時51分
◎場 所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 市長、福與教育長、北原教育長職務代理者、黒河内委員、宮坂委員
◎欠席者 田畑委員
◎出席職員 三澤教育次長、唐澤学校教育課長、北林子ども相談室長、矢澤生涯学習課長、
早川市誌編さん室長、小島社会教育指導員、小松指導主事、酒井指導主事、
伊藤教育総務係長

1 開 会

教育次長

ただいまから令和6年度第2回総合教育会議を開会いたします。はじめに市長からご挨拶をお願いします。

2 市長あいさつ

市長

だいぶ秋めいてきて、朝晩も涼しくなってきました。能登半島では、これでもかというような災害が続き、子どもたちだけではなくて、そこに暮らす皆さんの心中を考えると、本当に大変だと思います。

今日の総合教育会議は、教育大綱と中学校の部活動の地域クラブ移行についての意見交換ということをお願いしたいと思います。

教育大綱は、地方教育行政の組織、それから運営に関する法律において、地方自治体の長がその地域の実情に応じて教育文化振興に関する大綱を定めるということで、非常に重要な指針であると思います。

部活動の地域移行は、国がガイドラインを示し、それを受けて令和8年度末までに地域移行するというのが目標とされています。なかなか簡単にはいかないと思いますが、皆さんからの意見をいただきながら良い方向に持っていきたいと思っています。

有意義な意見交換できることをお願い申し上げまして挨拶いたします。

教育次長

ありがとうございました。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

教育長

本年度2回目の総合教育会議となります。この会は市長が子どもたちの生活や市民の皆さんの学びに近いところでの課題についてともに考えていただける機会、私ども含めては大変ありがたい機会となっています。

本年度設置できました学校法的相談アドバイザー、いわゆるスクールロイヤーですが、県教委も本年度より長野県スクールロイヤー制度を導入したところです。県内市町村においては先駆けての伊那市の取り組みになると思っています。市長のお力添えののだものと感謝しているところです。学校における問題は日増しに多様化、重層化し、学校内だけでは解決困難な事案が増えてきている中において、学校からも大変感謝の声が聞かれ、早速具体的な相談依頼も何件か寄せられています。教育委員会ではさらに各種の専門家の方々のアドバイスサポートが得られるような体

制づくりを現在検討しているところです。市長が日頃の中で行政の光が届いて、取り残される方がいないように学校の先生たちが困らないようにと言ってくださっていることは大変ありがたいと思っています。

本日は、教育大綱について、さらには喫緊の課題の一つである部活動の地域移行について情報共有と意見交換をしていただけたことありがたいと考えております。

子どもの育ちを真ん中に置いた教育、その在り様を考える機会として大事にしたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思います。ここからは市長の進行をお願いします。

4 協議テーマ

(1) 教育大綱について

教育次長から「教育大綱」について説明

市長

意見交換とありますが、どうですか。

教育次長

総合計画は、教育長職務代理委員さんには総合計画審議委員さんになっていただいております。昨年度、教育委員会内でも意見交換をさせていただいています。確認いただければと思います。

市長

いかがですか。よろしいでしょうか。では次のテーマをお願いします。

(2) 中学校部活動の地域クラブ等への移行について

唐澤部活動地域移行コーディネーターから部活動の地域移行の進捗状況等について説明

市長

説明を聞けば聞くほど大変だなと思います。伊那市には総合型スポーツクラブがありますが、小さい町、村では受け皿がない状況です。国はそういうところをどうするように考えていますか。

唐澤コーディネーター

例えば長野市では中心部の市街地とそれ以外があり、同じ市町村の中でもそういう場所があることや、小さい村がどうしても足りないということで市町村連携の話もあります。そのあたりは市長、教育長と考えて行く必要があります、伊那市としてのスタンス、上伊那をどうするのかという課題も出てきます。

市長

広域連合では、そういう話題が出たことないですが、かなりご複雑になります。例えば町、村

の子どもたちが伊那で活動する時の負担、保険など考えると簡単ではないと思います。伊那市の子どもたちだけであれば市が負担して運営することも考えられますが、毎年人が変わる、それに応じて負担してもらおうとなると、複雑になって大変だと思います。

教育長職務代理者

複雑なものを整理していかないとできないと思います。例えば、郡内では飯島と中川は連携してスタートしていますが、子どもたちの移送、時間帯、指導者の問題がありますし、また中体連の大会へ出ている種目でも市町村を跨いで出ているチーム、さらにオール長野県のようなチームもあるなど市町村の管轄とは全く離れてしまうものがあり、競技によっては非常に対応が違ってくると思います。今後、協議会を設置する中で、整理していくことだと思います。

市長

何か気の遠くなる話ですね。これ令和 8 年にはそういうものを立ち上げるということですね。皆さんから質問があれば、出してください。

教育委員

どのように問題を整理したら良いか見当もつかないような膨大なことですが、来年度から移行が可能な部活動の見通しはありますか。

唐澤コーディネーター

どういう状態を地域移行したというのか、規定や条件がはっきりしていません。例えば伊那市では、実際に子どもたちを集めているクラブもありますが、それを地域移行したか判断をするための材料が足りないので、私達は判断できていません。実際にいくつかそういうクラブもあると思っていますが、それを地域移行したクラブですと言えない部分があります。11 月に会議があるのではっきりさせて欲しいと思っています。

地域クラブは、規約や指導者、練習会場、計画表がしっかりできていれば良いとのことですが、あなたは移行しましたとか、いやまだできていません、とは言えないところがあります。

市長

資料に現状の部活動の人数があり、例えばバスケットの男子だったら、伊那中にはこれだけいるから外部の指導員をお願いして一つできるっていう判断ですかね。東部中も、西箕輪中もできる。高遠は 1 年生 4 人、長谷中はいないから、どうするかということですか。

唐澤コーディネーター

そういうこともあります。バスケットについては、中体連の参加資格の中では、地域移行のモデルになっている地域クラブの参加を認めていますが、例えば伊那市のように国の地域移行モデルではない地域クラブができたとしても、中体連には参加できません。もしやるとすれば、高遠中学の 4 人の子どもたちを校長同士で委託指導ということで、例えば春富中学校に子どもを委託することになると思います。少し複雑で難しい部分があり、バスケットだけでなく他の種目でも様々な条件があり、中体連だけ考えても、なかなか難しいクラブが出てきます。

指導主事

現状として、高遠中のバスケットの話がありました。次の新人戦では、赤穂中学校と合同チームを結成する方向で検討しているそうです。いわゆる地域クラブの移行とは異なり、人数の少ない学校同市が一つのチームを作って出ていくことは今まででもいろんな競技で行っていますので、

地域クラブができていない過渡期については、合同チームや委託指導という形をとっています。

ソフトボールでは、伊那中が南箕輪中などから委託を受けているものもあります。場合によると、そういったものがベースになってクラブとなる可能性もあります。今年度のように、例えば高遠中と赤穂中の合同チームになればそれで良いのですが、常にできるものではないので、きちんとチームを編成できて、大会も出ていいける形にするためにはどういう形が良いのか、考えていく部分となります。当面は何とか参加機会は得られる状況になっています。

市長

例えば高遠中と春富中と一緒にやるならわかるけれども、駒ヶ根市のクラブと一緒にやるとなると複雑になりますね。

指導主事

2校でチームを組む時、本当はこちらのチームは1校でもできますよ、でもこちらが足りないので入れてくださいという形の合同部活は基本的に認められておらず、どちらも苦しいところと一緒にする形になってきます。従ってそういう市町村をまたいで編成する学校も出てきます。諏訪のチームと合同チームをつくった例もあるようですが、一時的なものでした。

教育委員

指導者がいないことが一番問題ということですが、指導者の不足ということに絞ると、学校の先生に無理にやっていただくわけにいかないけれども、中には部活の指導をしても良いというかもしれません。また、地域にももちろんそれぞれいるのでしようけれども、そもそも、そういう人たちが伊那市にいないのか、または例えば月10万円払ったらやってくれるのか、お金で何とかなる問題なのか、そのあたりは感覚としてはどうですか。

唐澤コーディネーター

これだけの人口がある市ですので、いないとことはないと思います。県では指導者のリストを作るためこれから募集を始め、指導者600人集めるという話もあります。そこに応募して登録する方々は、大きな市町村の長野市や松本市、上田市は大勢いると思います。伊那市も大きい方の自治体ですが、登録された皆さんが伊那市の方ばかりとは限らず、必ずしもそのリストが使えるかどうかかわからないので、スポーツ課とも話をしています。伊那市としての指導者登録も考えていく必要があるし、学校の先生、加えて伊那市職員の皆さんのクラブもありますので、職員の皆さんにも指導していただくことも考えていく必要があります。その場合、子どもの指導になるので、例えば伊那市の職員の皆さんをお願いするにしても、少し勉強してもらうことも出てまいります。学校教育課にも指導主事がいて、各公民館長は教員出身も多いので、そういう皆さんを講師をお願いをして、コンプライアンスだけではなく、子どもたちの特性など、子どもの指導に対しての研修も必要だと考えています。

スポーツ協会、市の職員、学校の先生たちに声をかけさせていただいて、お金は時間900円、これは県の職員の部活の指導手当が大体3時間2,700円という額から出てきているのですが、そういうところも含めて、考えていく必要があります。それからもう一つ、これは市長さんをお願いしたいことで、例えば伊那市は県の900円に合わせるが、駒ヶ根市では1000円で伊那市より100円高いから、駒ヶ根市に指導に行きますという場合もあり得ますので、上伊那広域の中では一致してもらいたいと思っています。

また、教員の人事でも、例えば伊那市ではやりたくない人はやらなくて済むかもしれませんが、他の学校へ行ったらやってほしいとの話になる場合もあります。教員が自分の住んでいる地域で指導者になるなら良いけれども、勤めている学校で指導者になってしまうと、転勤によって指導

者がいなくなるなど、教員の人事は非常に複雑になってくることがあります。上伊那だけでもうまく状況を合わせてもらう、条件を合わせておくことが大事になってくると思います。

教育長職務代理者

指導者は非常に難しいところがあると思いますが、教員の働き方改革として、市の職員の皆さん、企業の皆さんが、ずっと係ることになります。その場合に、本当に好きでやってくれる方は良いと思いますが、そうでない方は無理にお願いしてもなかなか続かないので、考えていく必要があります。

もう一つは、生徒への指導になるので、例えば教員の場合には資格等見る中で、免許だけではなく過去の前歴等を見て、例えば性的な不安がないなど、そこをきちんとしていく必要があります。そこまで含めると、指導者バンクを作る、どのように集めていくかシミュレーションしてみるとよいと思います。

3年ほど前にキャリアの産官学で交流会をやった時に、上伊那の部活動の地域移行について、参加いただいた方の中には、長谷でテニスをしていたのでやります、南箕輪村でもやります、企業の重役さんからは会社から出します、など希望の光も出ているので、実際シミュレーションをしていくことが大事だと思います。

市長

例えばバスケットボールでは伊那中は16人なので指導者がいれば移行ができる、東部中も10人いるので指導者がいれば移行できると見てくると、少なくとも男子バスケットは4校で指導者にお願いをする、そういう考えでいいわけですね。

唐澤コーディネーター

その指導者が教員なのか、外部なのか、4チームできれば指導者が4人必要となりますし、1人で指導するわけにいかないのです、指導者の数は少し微妙です。

市長

男子バスケットを指導できる人を探して、調整しないとできませんか。

教育長職務代理者

例えば郡内にも各種目の協会があります。私もバスケットボール協会に所属していましたが、その協会の皆さんに、伊那市で指導してくださる先生をあたってみることもできると思います。

市長

私の子どもたちが小さい頃は、ミニバスケットで地域にそれぞれ指導してくれる方がいて、5年も、10年も指導してくれました。野球でも指導者がいました。その中学生版が出てくれば良いですね。

唐澤コーディネーター

今まで採めたのは、勝利至上主義、勝つために何をするかと考える皆さんと、レクリエーションでやりたいという子どもたちもいます。勝ちたいという考え方がいけないわけではなく、土日に少しやってみたいという子どもたちもいるので、2つに分けてという言い方も変ですが、そういうことも考えられます。

市長

確かにそうですね。ミニバスケットの時にも、バスケットを好きになってもらいたいから、怒らず伸ばしていく指導者もいれば、勝ち負けにこだわって何でもやろうという指導者もいました。そのあたりも難しいですね。

教育長

私が一番、難しいと思う中に、国や県では現行の部活動を移行する部分と、休日に新たなクラブを設置していく、本来その学校で設置できない部活、スポーツを地域で作るなかで、そういうところで興味持ってやりたい子がいれば、その受け皿をつくる必要がありますとしています。

実際に生徒たちにアンケートを取ると、中にはバスケをやっているけれども、土日に部活があるならバトミントンをやってみたい、そういう意向を持っている子たちもいるとすると、非常に複雑になります。今ある部活動を移すだけであれば、この学校の部活動は成立している、そこだけ考えれば良いという話ですが、場合によると土日になったら、バスケではなくて違う種目をやりたいという子たちの受け皿として、学校にはない部活を伊那市全体で一つ作るのかどうかということも考えていく必要がありますので難しいと思っています。

市長

そういう選択もあるということは頭に入れつつ、まずは移行を始めていくという事かもしれません。

教育長

一つはモデルを作って、それをやっていく中で、課題を整理していくやり方もある。一斉ではなくモデル事業としてやった時に、どんな課題が出てくるのかという整理の仕方もあるといいます。

唐澤コーディネーター

国から交付金をもらってモデル事業をやっているところはいくつもあります。モデルになったものが良かったり、悪かったりすることはあると思いますが、何をモデルにして何を検証するのか考え方がはっきりしないと、やりたいからやってみてくださいとはいかないので、スポーツ課でも交付金等の申請に二の足を踏んでいるところがあります。教育長がおっしゃるとおり、一步出てみないと、何が問題かわからないこともあります。

教育員

市町村教育委員会と市町村との交流会の発表の中で飯田市の事例があり、各学校でサッカーはサッカー、バスケのバスケ、1人の子どもが一つだけ打ち込むということあるのですが、そういうことではなくて、たくさんの講座を作って、1人の子どもが今週はバスケット、来週はバトミントンというように活動する、1回500円払ってスポーツを体験する、大会で勝つ世界ではなくて、生涯にわたっているんなスポーツを楽しく続けられるということを目的にやっているという事でした。一方、大会で勝ちたいとか、才能があるそういう子は、クラブ活動に親が送迎する、教育委員会は関与しないスタンスのように理解したのですが、それは単に学校でやっていることとは全く違う発想で、生涯にわたっているんなスポーツを楽しめる、そういう市民を作るということで、それは成功か、失敗かわかりませんが、参考になるとって見た覚えがあります。

市長

文化系は少ないですね。園芸クラブとか演劇、書道、そういうクラブはないですね。

指導主事

部活動としてはなく、個人的にやっているかもしれません。

教育長職務代理者

元々が学校部活動および新たな地域クラブ活動のあり方であり、その中に今のように目的が異なる地域クラブ活動、今までなかったものを求めてくることはあっても良いかなと思います。その時には学校の部活動と地域クラブ活動があることになります。学校部活動はその学校でそのままよく、存続が可能なものはそのまま、もちろん指導者を新たに活動できれば良く、さらに求めるものがあるとすれば、市長が言われたように書道部、この前こども新聞コンクールを見ていたら社交ダンスやっている子もいます。将棋など、そういうものがあってもいいわけです。

唐澤コーディネーター

そのあたり、保護者の皆さん、子どもたちは、そういう考え方にならないし、私達の間感としては部活動を移行すれば良いというイメージです。市長が言われるように、土日は何をやっても構わないので、水泳やりましょう、何をやりましょう、という形にはならないことも事実なので、どうしても続けてやる、しかも中体連があるという考え方になってしまいます。その考え方をどうやって変えていくかについては、相当努力と啓発活動が必要だと思います。

教育長職務代理者

将来的には平日も移行するわけだから、休日はこちらで、平日はこちらでというそういうのを除いた形、シンプルになるのではないかと思います。

唐澤コーディネーター

来年度には、県は平日の部活動をどのようにするのか方針を出すということですが、例えば授業が終わって、平日の3時から4時ぐらいから部活をやる、その活動を地域クラブとしてやるにしても、当然そこには指導者がいるということになれば、例えば、市の職員が指導員になった時に、勤務時間中にその指導に行ったら、年休を取るのか、職免になるのか、勤務中で兼業ではないので、そのあたり法的なものも含めて検討が必要でだと思います。

公務員が、平日、例えば火曜日とか水曜日の午後4時から学校に行く構図を作っておかないと、土日は良いかもしれませんが、ただ土日が休みではない人もいるわけで、そういうところも考えると、考える要素がいろいろありすぎて、簡単にはいかないと思います。

市長

パターンがいっぱいあるはずなので、今後、こうやってクラブの実態がわかってきたので、それぞれの種目について指導者がいるか洗い出す、冒頭で話したとおり行政間のお金のやり取りは複雑になると思います。まずやっていくということですか。

教育次長

協議会で揉んでいくところですが、県によっては土日の部活動はしない、としたところもあります。各市町村では、どこが一番先に白旗を上げるか見ている状況に見えます。部活動はありません、やりたい人は集まってクラブを立ち上げてください、というのは究極ですが、これだけ子どもたちがやっているのに「知らない」というわけにいかないと思います。協議会で話し合いながら進めます。

市長

この件については、その都度また会議を持ちながらお願いします。

唐澤コーディネーター

市職員の指導者については、市長からお声がけをお願いします。

市長

職員でも、サッカーをやったり、野球やったりしている人はいます。各種目については指導できる人がいるかどうかなど洗い出していくということですね。難しい問題ですが前に行くしかないのをお願いします。

(3) その他

①学校登山について

市長

次に、その他、「学校登山の現状」についてお願いいたします。

学校教育課長から学校登山の状況について説明

市長

今年度は泊まりがないのですね。学校登山では先生たちに負担をかけないように考えています。ガイドを複数人つける、消防署の職員をつけるなど、泊まりで登山できるような体制をとっていますので、ぜひお願いします。

市長

その他全体通して何かあればいいですか。

市誌編さんの状況はどうですか。

市誌編さん室長

組み見本と紙面のデザインを決めています。令和7年度に発刊する予定のものは4冊あります。2冊については概ね本文の原稿が書き終わり、内容の精査を行っています。業者に業務委託していますので、紙面のデザインが決まってくれば、原稿を流し込んで編集してもらい、ゲラ刷りして、校正をしていく流れになります。本文以外の部分、最初の表紙のデザインどうするのか、後書きを誰に書いてもらうのかということもありますので、そこは年明けぐらいに原稿を整えていくところまで来ています。半分は予定通りに、残りの2冊のうち1冊は7割ぐらいの原稿が揃ってきています。

市長

概ね、順調ですか。

市誌編さん室長

いろいろと話をさせてもらっています。「コロナ」に関しては、社会編でまとめまる予定でしたが、ボリューム的に1冊でまとめて良いのではないかと出てきています。社会編は3冊で予定していたところを、コロナ偏と社会情勢の部分と通信運輸を1冊にして、社会編2冊にする、自然編は1冊でしたが、伊那市の中でのビューポイントを設定していただく中で、このところから見るとこういう地形が見える、こういう地形の特徴が見える、ということを広報番組

の中でも提案させていただいているのですが、そういった部分のまとまりがありますので、先行して冊子にして、それを持って外に出て、体験、体感してもらうものにしてきたいということで、部会の中でもご意見をいただいています。

そうした形で令和7年度に出すもの、それ以降に出すものの検討も順次進めています。

市長

足りないものはありますか。

市誌編さん室長

人です。次長さんにご相談させていただき、対応いただいております。

自然編では、やまとイワナの原稿も上がってきていますので、改めてお願いに行きたいと思っています。自然編はビューポイント先行で進めていますので、ピンポイントでこの部分を検討するのと、どういう趣旨として作っていくのかについては様子を見ながら進めていくので、大変なところはあります。

市長

よろしくお願いします。その他よろしいですか。では、ここまでとします。

5 閉会

教育次長

ありがとうございました。以上で、第2回総合教育会議を終わります。ありがとうございました。